

やんばるにおけるこれからの赤土等流出対策と減災 シンポジウム

— 北部豪雨の経験から流域治水の共創へ —

【開催概要】 日 時：令和8年2月5日（木） 10:00～13:00

○連携協定署名式 10:00～ ○シンポジウム 11:00～

会 場：辺土名公民館（国頭村字辺土名 791） 参加費：無料

【シンポジウム登壇者プロフィール】

島谷 幸宏（しまたに ゆきひろ）



熊本県立大学 特別教授 / 大正大学 地域構想研究所 客員教授。1955 年山口県生まれ。旧建設省九州地方建設局武雄工事事務所所長、九州大学工学研究院教授を経て現職。専門は河川工学、河川環境。著書に『協働による環境と防災の調和』『河川の自然環境の保全と復元』『河川風景デザイン』。

蔵治 光一郎（くらじ こういちろう）



東京大学 教授。1965 年東京都生まれ。東京大学大学院修了。専門は森林水文学、森林流域管理学。著書に『森の「恵み」は幻想か：科学者が考える森と人の関係』編著書に『長良川のアユと河口堰』。

萱場 祐一（かやば ゆういち）



名古屋工業大学 教授。1965 年仙台市生まれ。東京工業大学大学院修了。1991 年に旧建設省土木研究所入所、2021 年より現職。河川工学と河川環境の融合領域に長年携わり、近年は流域治水を視野に入れた川づくりの在り方、技術論に取り組んでいる。

皆川 朋子（みながわ ともこ）



熊本大学 教授。専門は河川環境、応用生態工学。著書に『社会基盤と生態系の基礎と手法』『水辺を守る 3 湿地の保管理と再生』、『図説 日本の湿地』、『図説 河川災害と復興：自然環境の再生と持続社会』。

佐藤 琢磨（さとう たくま）



熊本県立大学 共創の流域治水研究室 学術研究員。大正大学事業法人ティー・マップベンチャー事業部を経て、2022 年より現職。専門は湿地の生き物と情報技術。

主 催：「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点
国頭村役場・大宜味村役場・東村役場

後 援：国頭漁業協同組合

お問い合わせ：国頭村役場 商工観光課 TEL：0980-41-2622(比嘉)